

⑧

防災訓練事業

【安心安全課】

資料

外部評価実施日：令和元年8月2日（金）

令和元年度 “「長久手市役所の仕事」通知表” の作成 ～長久手市行政評価・外部評価～

防災訓練事業

くらし文化部 安心安全課



1

1 事業概要（A票）

◆事業の名称

防災訓練事業

◆事業の開始の背景、経緯等

平成25年度から、市内6小学校で一斉に訓練を行う市内一斉防災訓練へと変更した。各校区における訓練内容、訓練運営等については、連合会等を中心とした市民が主体で行っている。

2

2 事業の実施体制（A票）

◆組織体制、人員

くらし文化部 安心安全課

課長	1人
主幹	1人
課長補佐（係長兼務）防災担当	1人
主事	3人

3

3(1) 事業目的等（A票）

◆事業内容（どのような事業なのか）

市民の防災意識を高めるため、企画段階から市民や防災関係機関等に関わってもらい、市内6小学校を会場に避難訓練や避難所での訓練を市民参加型で行う。また、市役所は災害対策本部を立ち上げるとともに、会場となる避難所との情報伝達訓練などを行い、市民、関係機関、行政が連携した訓練とする。

◆事業対象（誰、何を対象にしているか）

市民、市職員、企業、消防・防災関連団体、ボランティア団体他

4

3(2) 事業目的等 (A票)

◆事業意図 (対象をどのような状態にしたいか)

市民1人1人が防災意識を高めるとともに、関係機関等との連携を確認し、大地震で被害を最小限に抑えること。

◆事業を構成する事務事業 (B票)

① 防災訓練事業

②

③

5

4 事務事業の目的・活動状況【事務事業①】 (B票)

◆事業を構成する事務事業

防災訓練事業

◆目的 (対象・手段、意図)

対象：市内住民や職員、その他団体など

手段：防災訓練の参加促進のため、啓発品等の購入を行う。

意図：市民や各種団体、市職員それぞれの立場で防災意識を高め、災害時に応急対応を行うことができるようにする。

◆事務事業の活動状況

6回目となる市内一斉防災訓練を開催し、
3, 374人の住民参加があった。

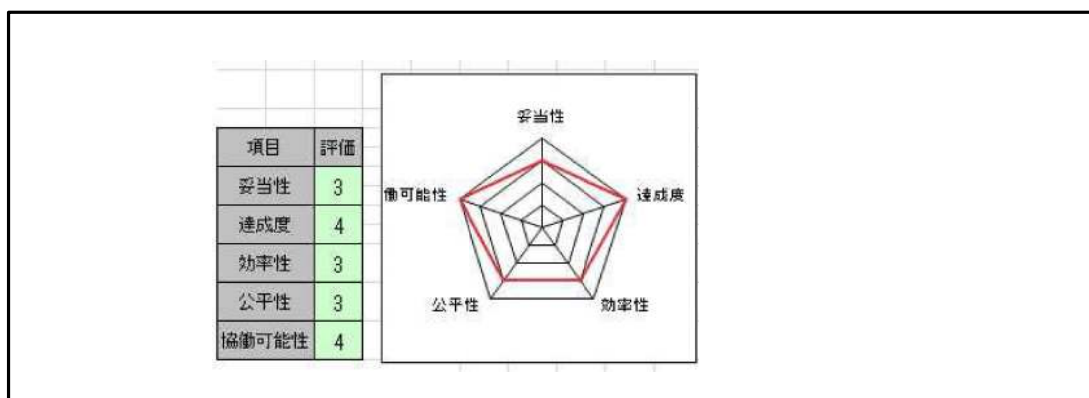
6

4 事務事業の目的・活動状況【事務事業①】 (B票)

◆前年度からの改善状況

防災訓練の参加者の拡充を図るため、昨年度同様にポスターを作成し、市内事業所及び公共施設への掲示を行った。

◆事務事業の評価



7

4 事務事業の目的・活動状況【事務事業①】 (B票)

◆協働可能性について

・市民参加の延べ人数

平成28年度：3,808人、平成29年度：3,893人
平成30年度：3,374人

・協働の状況

市民主体の防災訓練として、訓練計画等を連合会等を中心とした、地域住民が担っている。

8

5 コスト（A票）

◆平成30年度事業費

907千円

◆平成30年度人件費

5,472千円

◆事業費の主な内訳

消耗品費 814千円

損害保険 57千円

燃料費 20千円

6 事業の成果【成果指標①】 （A票）

◆事業の成果指標

当年度訓練参加者数

◆事業の成果目標

前年度訓練参加数

◆事業の成果実績

3,374人

◆成果指標、目標等の設定理由

防災訓練の参加者数（前年度実績を目標値）

6 事業の成果【成果指標②】 (A票)

◆事業の成果指標

訓練課題への取組率

◆事業の成果目標

訓練課題に取組んだ数

◆事業の成果実績

100%

◆成果指標、目標等の設定理由

防災訓練検証会で意見提出された訓練課題への取組率（取組んだ数／訓練課題数）

11

7 環境変化（A票）

◆近隣市町の実施状況や事業を取り巻く環境変化

尾張旭市、瀬戸市、東郷町で同様の訓練を実施

尾張旭市：自主防災組織による救助救出訓練。

消防・警察・自衛隊などが連携して事前に訓練内容を知らせずに行うブラインド訓練

日進市：地区の訓練を持ち回りで実施している。

みよし市：毎年1つの中学校区で市主導の総合防災訓練を実施
その他の地区では自主防災会が中心となり個別に自主的な防災訓練を実施

岡崎市：全市一斉の防災訓練。市民による避難訓練や避難所運営訓練を実施。

12

8 事業の評価（A票）

◆事業の目標達成状況

前年度より、参加者数が減少し目標を達成できなかった。

◆事務事業全体を見た課題

より市民主体の訓練となるように、実施要領等を検討する必要がある。

9 事業の今後（A票）

◆事業の今後の方向性

より市民主体の訓練となるように、職員によるサポートを減らし、その分職員は、災害時における応急対応に関する訓練を行う。

◆事業の中長期の目標

平成33年度頃までに、全ての校区で市民主体の訓練を実施できるようにする。

10 事業のまとめ

◆事業の課題など

近年、豪雨や地震による災害が多く発生している。平成25年度から実施している市内一斉防災訓練の際に、各小学校に毎年10人程度の職員を配置し訓練の支援などを行っているが、災害時に避難所の運営等のために配置できる職員は5人程度であることから、支援の数を減らし、その分職員は災害時の応急対応訓練を行う、訓練内容の中に避難所宿泊体験を行うなどより実際的なものにしていきたい。また、地域内住民が地域ごとに自発的にできるよう、より市民主体の訓練となるように、実施要領について検討していく必要がある。

◆外部評価実施者に助言をもらいたいことなど

市内一斉防災訓練を実施するにあたり、各小学校区の取り組み方に差が生じてきており、それを是正して行くにはどのように進めていくことがよいか。

地域が主導的に校区における会議を行うところ、そうでなくてどうしても市職員に頼らざるを得ないところなど差がある。

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	034 -	事業名	防災訓練事業	担当部課	くらし文化部安心安全課
------	-------	-----	--------	------	-------------

基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ 人がいきいきとつながるまち	会計区分	一般会計	
	まちづくり行程表・フラッグ	✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	予算区分(款 - 項 - 目)		
	第6次総合計画・基本目標	✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち	2-1-14 防災費		
	法定受託事務の有無	—			
	その他(関係計画、要綱等)	—			
	事業開始の背景、経緯等	平成25年度から、市内6小学校で一斉に訓練を行う市内一斉防災訓練へと変更した。各校区における訓練内容、訓練運営等については、連合会等を中心とした市民が主体で行っている。			

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 市民に防災意識を高めるため、企画段階から市民や防災関係機関等に関わってもらい、市内6小学校を会場に避難訓練や避難所での訓練を市民参加型で行う。また、市役所は災害対策本部を立ち上げるとともに、会場となる避難所との情報伝達訓練などを行い、市民、関係機関、行政が連携した訓練とする。			
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民、市職員、企業、消防・防災関連団体、ボランティア団体他			
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民1人1人が防災意識を高めるとともに、関係機関等の連携を確認し、大地震で被害を最小限に抑えること。			
	事業を構成する事務事業(B票)	① 防災訓練事業	改善・見直し	④	
		②		⑤	
		③		⑥	

コスト推移	項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
		事業費(A)	千円	予算	1,034	928	1,163	1,168
	決算			1,127	797	1,053	907	
	人件費(B)	千円	決算	14,130	14,130	13,909	5,472	
	総コスト(A)+(B)	千円	決算	15,257	14,927	14,962	6,379	

成果推移	成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	A	訓練参加者数	人	目標	3,349	3,483	3,808	3,893
実績				3,483	3,808	3,893	3,374	
B	訓練課題への取組率	%	目標	—	—	100	100	100
			実績	—	—	100	100	
C			目標					
			実績					
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 防災訓練への参加者数の総計(前年度実績を目標値とする。)								
B 防災訓練検証会で意見提出された訓練課題への取組率(取組んだ数/訓練課題数)								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 尾張旭市、瀬戸市、東郷町で同様の訓練を実施。 尾張旭市…自主防災組織による救助救出訓練。 消防・警察・自衛隊などが連携して事前に訓練内容を知らせずに行うブラインド訓練。 日進市…地区の訓練を持ち回りで実施している。 みよし市…毎年1つの中学校区で市主導の総合防災訓練を実施。 その他の地区では自主防災会が中心となり個別に自主的な防災訓練を実施。 岡崎市…全市一斉の防災訓練。市民による避難訓練や避難所運営訓練を実施。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 前年度より、参加者数が減少し目標を達成できなかった。
	過去5年間の振り返り	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) H26～H29については、参加者数が増加したが、H30に減少に転じてしまった。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) より市民主体の訓練となるように、実施要領等を検討する必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) より市民主体の訓練となるように、職員によるサポートを減らし、その分職員は、災害時における応急対応に関する訓練を行う。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成33年度頃までに、全ての校区で市民主体の訓練を実施できるようにする。

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	*より市民主体の訓練となるように事業を進めてください。 *参加者が減少している理由、同時に参加者が多い訓練を研究し、市民に共有してください。
------	-------------------------	---

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	防災訓練事業		担当部課	くらし文化部安心安全課	決算書ページ	—
事務事業名	①	防災訓練事業	予算区分	2-1-14 防災費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成25年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市内住民や職員、その他団体などを対象に、防災訓練への参加を促進するために、啓発品等の購入を行う。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民や各種団体、市職員それぞれの立場で防災意識を高め、災害時に応急対応を行うことができるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算 決算	1,034 1,127	928 797	1,163 1,053	1,168 907	1,185
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		消耗品費					814千円
(2)		損害保険					57千円
(3)		燃料費					20千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
参加者数	人	見込	3,349	3,483	3,808	3,893	3,374
		実績	3,483	3,808	3,893	3,374	
取組率	%	見込	100	100	100	100	100
		実績	100	100	100	100	
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
6回目となる市内一斉防災訓練を開催し、3,374人の住民参加があった。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

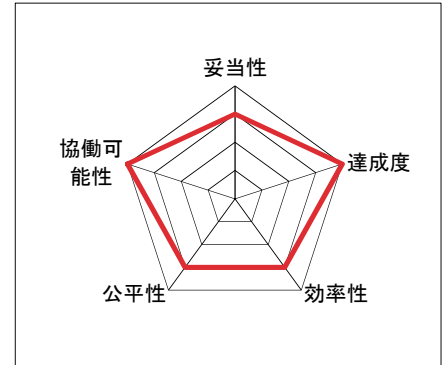
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
より市民主体の防災訓練としていく必要がある。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
1,168千円 1,185千円 17千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 拡充
・前年度【コメント】
平成30年度も引き続き、防災訓練啓発ポスターの作成を行い、防災訓練への参加の呼びかけの拡充を図る。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
昨年度同様にポスターを作成し、市内事業所及び公共施設への掲示を行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	3
公平性	3
協働可能性	4



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	3,483	3,808	3,893	3,374
実績	3,808	3,893	3,374	
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
市民主体の防災訓練として、訓練計画等を連合会等を中心とした、地域住民が担っている。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
小学校区において、訓練の達成度や、主体性に差が生じてきている。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
防災訓練がイベント化してきており、参加者数が減少している。 市職員による地域へのサポートが手厚いため、参加職員数を減少させ、同日に災害時における職員の応急対応に関する訓練を行う。

7. 今後の方向性

改善・見直し

防災訓練取組課題

長小

今年度の防災訓練における課題
(この中から来年度校区として取り組む課題を案出)

- 若い方ほど備蓄の考えがない。
- たきだしのボランティアの不足
(暖かい食事は大切)

今年度の防災訓練においてよかったと思うもの
・長小は246人昨年より参加者減少した。
(昨年は一時避難場所参加者までカウントしていた。)
長小まで来た参加者は増加した。

- 体験型訓練 新聞紙よるスリッパ作成
牛乳パックによるふえ作り

来年度の校区として取り組む課題
(2つか3つ)

- 長小までは遠く、高齢者・障がい者は来て訓練するのは難しい。
- 一時避難場所での訓練
(安否確認)

来年度も継続した方がよいと思うもの

- 防災マップの掲示と配布
- 消火器訓練

防災訓練取組課題

西小

今年度の防災訓練における課題
(この中から来年度校区として取り組む課題を案出)

- 各ブースと講演の調整
- 広報チラシの配布の方法の検討
- 進行・受付スタッフの打合せ強化
- どなたも受け入れが出来るような体制づくり

今年度の防災訓練においてよかったと思うもの

- 家具転倒防止講話
- 段ボールベット体験
- 公園から避難所までの車椅子での搬送訓練

来年度の校区として取り組む課題
(2つか3つ)

- 今回変更したアンケートを再度検討し来年の周知計画を検討
- 自治会未加入者の参加者数を増やす検討

来年度も継続した方がよいと思うもの

- 無事ですカードの掲示を継続する。
一部の地域で実地検証ができた。
他の自治会にも願います。

防災訓練取組課題

東小

今年度の防災訓練における課題
(この中から来年度校区として取り組む課題を案出)

- 各地区の代表は参加する。
(三ヶ峯、中根が不参加)
- 区長等の交替は1年となっているため継続が困難(検討が必要)
- 地域の実情に合わせた訓練参加が必要

今年度の防災訓練においてよかったと思うもの

- 安否確認の第一歩ができた。
(一部の地域で安否確認を実施)

来年度の校区として取り組む課題
(2つか3つ)

- 各地区の代表が参加できるような仕組み作り
- チェーンソーの取り扱い訓練
- 地域の実情に合わせた訓練の参加要領の検討

来年度も継続した方がよいと思うもの

- 避難行動要支援者の安否確認の継続

防災訓練取組課題

北小

今年度の防災訓練における課題
(この中から来年度校区として取り組む課題を案出)

- 若い世代の参加者を増やす。
- 避難所や一時避難場所の周知

今年度の防災訓練においてよかったと思うもの

- 民生委員と連携した要支援者の安否確認
(地域として昨年10数名、今年約50名の参加)
- 学生さん等がスタッフとして参加
(名商大、長久手高校)
- 起震車による地震体験

来年度の校区として取り組む課題
(2つか3つ)

- 参加スタッフも訓練全体に参加
- 日常の意識啓発
(ハグ、ディグ等)

来年度も継続した方がよいと思うもの

- 要支援者の安否確認の継続

防災訓練取組課題

南小

今年度の防災訓練における課題
(この中から来年度校区として取り組む課題を案出)

- 展示のブースが多く、体験型のブースが少なかった。
- 自治会未加入者への対応要領が不十分

今年度の防災訓練においてよかったと思うもの

- 給水訓練を実施したが、参加者の関心が高かった。
- 若い世代の参加者が比較的多い。

来年度の校区として取り組む課題
(2つか3つ)

- 黄色いタオルによる安否確認
(確認率の向上)
- 体験型ブースを増やす。
- 学校(小学校)との連携

来年度も継続した方がよいと思うもの

- 地域と連携した安否確認の継続実施
- 一時避難場所での訓練の取り組み

防災訓練取組課題

市が洞小

今年度の防災訓練における課題
(この中から来年度校区として取り組む課題を案出)

- 訓練に参加できない高齢者・障がい者等の対応
- 避難訓練の住民の無関心
(防災訓練)

今年度の防災訓練においてよかったと思うもの

- 防災グッズの展示、みんなが食べられる炊き出し訓練

来年度の校区として取り組む課題
(2つか3つ)

- 訓練に参加できない高齢者・障がい者等への対応
- 避難訓練への住民の参加意識の高揚
(防災訓練)

来年度も継続した方がよいと思うもの

- 防災グッズの展示やみんなが食べられる炊き出し訓練の継続
- 防災ゲームや一泊体験訓練の検討・実施